

# I 調査結果概要

## 県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、厳しい状況ではあるが、持ち直しの動きが続いている。

先行きについては改善の動きがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲46.6と、前期比で10.1ポイント増加し、6期連続で改善した。業種別では、製造業は5期連続で改善し、非製造業は2期ぶりに改善した。
- 景況感の先行きD Iは▲16.8と、前回調査比で8.4ポイント増加し、3期ぶりに改善した。
- 売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは2期ぶりに改善した。
- 設備投資の実施率は22.6%で、2期連続で増加した。
- 来期については、売上げD I・資金繰りD I及び採算D Iは当期D Iより悪化する見通しである。また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和3年7～9月期、「当期」：令和3年10～12月期、「来期(先行き)」：令和4年1～3月期

### 1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲46.6となり、6期連続で改善した。前期比で10.1ポイント増加し、前年同期比では19.0ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲42.8)は5期連続で改善し、非製造業(▲49.4)は2期ぶりに改善した。

#### <景況感D Iの推移>

	当 期 (R3.10-12)	前 期 (R3.7-9)	前年同期 (R2.10-12)
全 体	▲46.6	▲56.7	▲65.6
製 造 業	▲42.8	▲50.9	▲70.0
非製造業	▲49.4	▲61.1	▲62.2

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は8.4%（前回調査(R3.7-9月)比+1.0）、「悪い方向に向かう」とみる企業は25.2%（前回調査比▲7.4）だった。

先行きD Iは▲16.8（前回調査比+8.4）と、3期ぶりに改善した。

#### <来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R4.1-3)
全 体	8.4%	25.2%	▲16.8
製 造 業	9.7%	26.0%	▲16.3
非製造業	7.4%	24.5%	▲17.2

## 2 売上げについて

売上げD Iは▲12.9（前期比+21.7）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより悪化する見通しである。

### 〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R3. 10-12)	前 期 (R3. 7-9)	前年同期 (R2. 10-12)	来期見通し (R4. 1-3)
全 体	▲12.9	▲34.6	▲25.7	▲24.3
製 造 業	▲2.0	▲27.6	▲15.8	▲20.3
非製造業	▲21.2	▲39.9	▲33.3	▲27.2

## 3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲18.4（前期比+10.0）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより悪化する見通しである。

### 〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R3. 10-12)	前 期 (R3. 7-9)	前年同期 (R2. 10-12)	来期見通し (R4. 1-3)
全 体	▲18.4	▲28.4	▲24.0	▲24.4
製 造 業	▲15.1	▲23.3	▲21.9	▲23.0
非製造業	▲20.8	▲32.3	▲25.7	▲25.4

## 4 採算について

採算D Iは▲25.7（前期比+13.5）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより悪化する見通しである。

### 〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R3. 10-12)	前 期 (R3. 7-9)	前年同期 (R2. 10-12)	来期見通し (R4. 1-3)
全 体	▲25.7	▲39.2	▲33.6	▲28.6
製 造 業	▲21.7	▲33.8	▲26.6	▲24.9
非製造業	▲28.6	▲43.3	▲39.1	▲31.4

## 5 設備投資について

実施率は22.6%となり、2期連続で増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は2期ぶりに増加し、非製造業は2期連続で増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

### 〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R3. 10-12)	前 期 (R3. 7-9)	前年同期 (R2. 10-12)	来期見通し (R4. 1-3)
全 体	22.6%	19.7%	19.8%	18.1%
製 造 業	27.2%	22.6%	21.4%	23.2%
非製造業	19.2%	17.5%	18.5%	14.2%

## 6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降を御覧ください）

### 【現在の景況感】

- （一般機械器具）・半導体製造装置向けの需要は変わらず強く、好況である。
- （輸送用機械器具）・半導体不足等による自動車メーカーの減産により受注が落ち込んでいる。
- （銑鉄鋳物）・輸出向け製品を中心に受注が大幅に回復しており好調である。
- （印刷業）・昨年度に比べると上向いているが、イベント関連が再開しておらず、回復していない。
- （百貨店）・客足は戻りつつあるが、コロナ禍前ほどではない。
- （商店街）・少しずつ回復しており、昨年になれば良くなっている。
- （情報サービス業）・デジタル化の設備投資の優先度が上がり、業界として良い方向に進んでいる。
- （建設業）・コロナ禍で郊外住宅需要が続いていたが、在庫が不足しており売上げも落ち着いてきた。

### 【売上げ・採算】

- （電気機械器具）・5G関連の生産が軌道に乗り、前年同期比で増加した。
- （プラスチック製品）・原材料価格は上がったが、コスト圧縮により採算性はほとんど変わらない。
- （金属製品）・原材料価格の高騰が影響し、採算性が悪化した。
- （食料品製造）・緊急事態宣言が解除され、観光客向けの売上げが増加した。
- （スーパー）・コロナ禍でキャッシュレスが進み、決済の手数料負担が重くなっている。
- （旅行業）・前年同期比では増加しているが、前々年比では2～3割程度にとどまっている。

### 【今後の見通し】

- （一般機械器具）・半導体製造装置向けは横ばい見通しだが、その他製品の売上回復が見込まれる。
- （輸送用機械器具）・東南アジア圏の感染の収束次第であり、どちらともいえない。
- （金属製品）・原材料価格も高騰しており、先行きは不透明である。
- （印刷業）・コロナ禍でデジタル化、ペーパーレス化が進んでおり、悪い方向に向かうとみている。
- （百貨店）・感染症の収束次第だが、良い方向に向かうとみている。
- （旅行業）・個人旅行が増えていくと考えており、団体旅行は100%までは戻らない見通し。
- （建設業）・ウッドショックや鋼材価格の高騰次第であり、どちらともいえない。